

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・領域をつないだ単元をつくり、「学ぶ」過程を大切に、「わかる」「できる」と実感する授業をつくる。 ・国語科・算数科における基礎学力の向上を図る。【課】【思】 	<p>内発的動機付けを行い、自分で考え、表現する場を位置付けた授業を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・算数科の授業は「よくわかる」「学びが面白い」質問項目に対する肯定的評価87%以上にする。【児童アンケート】 	<p>□児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」94.5%「学びが面白い」91.2%。達成率100%。</p> <p>□課題のある児童に対して個別指導を行ったり、学力テストの結果を元に単元をつないだ授業づくりを行った。</p>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> □学力アップデーやドリルタイム等の時間を使って、学力調査で課題のあった領域への重点的な指導を行う。 □学期終わりに単元づくりシートの内容や普段の取組に対する交流を行い、よりよい授業づくりに向けて全職員で検討を行う。 □肯定的評価でない児童の把握をし、個別に指導を行う。 				
				<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・算数科における基礎学力の向上を図る。【課】【思】 	<p>児童の課題を分析し、授業改善の推進やドリルタイムの実施、タブレットを効果的に活用をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト（国語科「思考・判断・表現」、算数科「知識・技能」観点）や各種学力調査において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満及び全国平均以上にする。【単元テスト・全国学力・標準学力調査】 	<p>□単元テスト（国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年6.9%、中学年5.5%、高学年2.8%。全体での達成率は66.6%。算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童は低学年17.2%、中学年2.7%、高学年5.7%。全体での達成率は75%。</p> <p>□全国学力・学習状況調査の分析や単元構想シートの作成を行い、授業改善に取組んだ。</p>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の中で苦手意識をもっている児童や個別の支援が必要な児童を把握する。 ・「フレームリーディング」の手法を物語・説明文の中で取入れることで、読みの視点をもって様々な教材文を読む力をつける。 ・学力アップデーや問題データベースを用いて多様な文章問題に取組ませることで、応用的に文全体の内容を読み取る力をつける。 				
1	主体性・積極性、共感力の育成	★	継続	<p>自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】</p>	<p>月1回OPT（大津野プロジェクトタイム）を実施し、つけたい力を掲示する。代表委員会等を活用し、異学年でつけたい力等を交流する時間を設定する。</p>	<p>学級力リーダーチャートにおける「目標達成力」を87%以上にする。【毎月のリーダーチャート】</p>	<p>□学級力リーダーチャートにおける「目標達成力」88.2%（18学級中15学級達成）。</p> <p>□1学期に3回、学級活動について授業の進め方やOPTの活用方法について交流し、意識統一を行った。また、2ヶ月に1回代表委員会でも交流したことで意識して取組んだ。</p>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・OPTで決めたことや振り返りの内容を職員間や学級間で交流することができるような場や時間を設定する。 ・職員研修等で交流した内容を異学年で実施できるように期間を設定し、職員会議等で振り返りを交流する。 				
				<p>お互いの立場を尊重し合え、自尊感情の高い児童を育てる【共】</p>	<p>学期に1回、お互いのよさを認め合える場面を設定する。（なりたい自分の振り返り）</p>	<p>学級力リーダーチャートにおける「相手を受け入れる」を80%以上にする。【毎月のリーダーチャート】</p>	<p>□学級力リーダーチャートにおける「相手を受け入れる」94%（18学級中17学級達成）。</p> <p>□なりたい自分の振り返りを学期に1回行い、児童同士でコメントを送り合ったことで、自分では気付けない自分のよさに気付くように取組んだ。</p>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋でお互いのよさを交流した実物を持ち寄って、職員で振り返りを行うことで、どのような付箋を使うと効果的なのかや、児童がお互いどのような内容进行交流しているのかについて共有を図る。 				

1	たくましい体の育成	見直し	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、授業改善の推進や「大津野モリモリタイム」等に取組む。	・新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【新体力テスト】 ・運動やスポーツをすることは好きを87%以上。【体力テスト】	□職員研修を通して指導力を向上させたり、大津野モリモリタイムを行い主体的に運動する児童を育てるよう取組んだ。 □96種目中35種目達成し、達成した種目率は36.4%。 「運動やスポーツが好き」87.4%。	3	2	・体育の授業の導入に課題がある種目の強化月間を行い、走力や敏捷性等を高める。 ・カリキュラムマップに各学年の課題に対して力を入れて取組む単元を明記し、授業の中で継続して取組む。 ・体育委員会が体力向上の取組を考え、実践することで運動する意欲や運動能力を高める。				
2	教職員の元気・笑顔	継続	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見直しを持って職務を遂行する。夏季・冬季休業中に会議等のない日を設定する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。	□時間外勤務時間平均45時間未満の月は、92%であった。 □夏期休業中に一斉閉庁日を5日間、会議等を入れない年休取得奨励日を3日設定し、年休を取りやすくした。	3	3	・業務の効率化を図り、時間外勤務平均45時間未満の月100%になるよう継続して取組む。 ・冬期休業中の業務を精選し、積極的な有給休暇の取得を促していく。				
		★継続	各教職員が具体的な取組を1つ設定し、その達成に向けて挑戦する。【課】【主】	定期面談を実施し、教職員と対話を通して進捗状況の把握し、達成のための支援をしていく。	仕事のやりがいを感じている教職員を87%以上にする。【100年教育アンケート】	□100ONENアンケートにおいてやりがいを感じている教職員は100%であった。 □教職員との対話を通して具体的な取組を1つ設定できている。また、面談等を実施しその進捗状況について指導・助言している。	3	4	・業務遂行の過程や達成度が自身の有用感へとつながるよう、教職員1人1人との対話を通してフィードバックしていく。				
3	保護者・地域から信頼される学校の創造	見直し	自ら主体的に考え行動できること、そして、地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	当たり前のこと（挨拶・掃除）が当たり前に行える児童の育成。HPなどを活用し情報公開を行う。月1回以上の通信発行で児童の様子を伝える。	保護者満足度を87%以上にする。【保護者アンケート】	□保護者アンケート満足度は100%（18学級中18学級達成）。 □HPや学年通信などで児童の様子を伝えた。また、挨拶や掃除など当たり前に行える児童を育てるために、日頃から意識統一をして指導を行った。	3	4	・保護者アンケートの項目のうち、「HPや通信等で学校の様子が伝わっていますか」が85%と目標数値を達成できなかったため、児童の様子を通信やHPで伝えるとともに、HPの更新を毎月、各学年に呼びかける。				

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。